

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100139		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう浜民（岩手棟）		
所在地	〒028-4132 盛岡市浜民字泉田178		
自己評価作成日	令和6年9月18日	評価結果市町村受理日	令和6年11月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年10月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの役割の理解を深めながら、その人らしい暮らしが出来るように自立支援を大切にしている。昨年度に引き続き、所長会議を毎月行い、3事業所の課題の取り組みや運営について話し合いを設けている。職員の育成にも力を入れており、3事業所の交換研修を行い、各事業所に行くことで支援のズレがないように職員の成長にも繋がっている。今年度は事業所間のフォローアップ研修(社会人のマナーとして)や介護の基本として、研修を行い職員の育成にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、総合支所や小学校、児童館が隣接する閑静な住宅地にある。介護支援方針を「利用者ができる事は自分で行い、できない部分で必要とされる支援を行う」として、利用者の自立支援に力を入れている。法人で運営する三事業所の目指す取り組みや運営について、毎月各管理者が集まり話し合いを持ち、相互に連携しながら情報交換や相談をしやすい体制が出来ている。利用者は、職員と一緒に近隣のスーパーマーケットや商店に出かけ、食材や必要な品を購入し、献立を考えて調理している。また畑仕事や草取りも利用者を中心とした利用者本位の支援としている。洗濯等も主体的に自分で洗い管理している利用者もいる等、自宅と同様の生活ができるように、職員は要望を聞き、一緒に行動する見守り支援に努めている。散歩中に近所の方が声をかけてくれたり、保育所の子供達が来所するなど、地域との交流もコロナ前に戻していけるよう努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 (岩手棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議の場で理念・方針を読み上げる事で再確認している。又、理念・方針に添った課題の取り組みとして勉強会等している。	設立時に職員間で話し合って作成した運営理念と介護支援方針について、新人職員が多いこともあり、全体会議で唱和し確認している。利用者の自立支援に向けて、接遇研修を行い、職員間で共有しながら実践している。また毎月法人の三事業所の管理者が集まって、方針や運営にズレが生じないように確認し合い、連携を取り合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度より、5S活動を始めホーム周りのゴミ拾いを利用者さんで行ったり、毎日の散歩の際に地域の方を見かけた際には声をかけている。	町内会には加入していないが、運営推進会議の委員となっている自治会長の協力を得て、地域の会報を届けていただいている。毎日の散歩で地域の方と会った時には挨拶し、今年度5月から始めた生産性向上委員会の活動を通じた事業所周辺のゴミ拾い、草取りなどで、地域の方と会った時にも挨拶を交わしている。児童館の児童との交流会では涙を流し喜ぶ利用者もいた。小学校の学習発表会の見学予定もあり、交流を通して地域との繋がりをコロナ前に戻して行けるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスも5類になり、児童館の夏祭りに参加させて頂き、おもちゃすくいをさせて頂いたり。近くの保育園の子供たちが施設へ来られ手遊び歌や踊りを披露して下さったりと少しずつではあるが、子供たちとの交流も増えている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催し、利用者さんも一緒に参加され、現状報告や課題を提起し意見を頂いている。又、看護学生も居宅の方と参加される事もあり違う視点で意見を聞く事が出来ている。	2ヵ月毎に開催し、委員は自治会長、民生児童委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、利用者、事業所職員で構成され、9月からは家族も参加している。管理者は、今後も順番に参加していただけるよう声掛けしていきたいとしている。議題としては、利用者の生活の様子や入居状況、ヒヤリハット、事故報告などがあり、委員の方々と積極的に意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、相談させて頂き意見や助言を頂いている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員も出席し、意見や助言をいただいている。市担当課とは、介護保険、要介護認定申請、運営推進会議の書類提出等で、直接関わる事も多い。メールや電話でのやり取りを通じ、指導や助言もいただいている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 (岩手棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束適正化委員会を実施し、現状に対して話し合い、取り組み内容を各職員へ周知し改善に向けて話し合いをし取り組み内容を各職員へ周知し改善に向けて取り組んでいる。年2回の内部研修の実施し、今年は7月に実施し、来年は2月に実施する予定。	3ヵ月毎に「身体拘束適正化委員会」に併せて「行動制限廃止委員会」を開催している。管理者、ユニットリーダー、介護計画作成担当者、各棟2名の職員を委員に、利用者に不適切な関わりがないか等の問題点を協議し、必要な改善策を全職員に周知している。また、年2回研修会を開催し、事例を通して改善に向けた取り組みを行なっている。スピーチロックは、できるだけその場で指導するよう心掛けている。玄関の施錠は、防犯のため夜のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会と併用して、不適切なケアに繋がるような内容があれば、改善に向けて話し合いを行い職員へ周知し改善に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修の参加は昨年度はなかったが、今年度は参加させていただく予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所として入居時にはご家族さんに分かりやすく説明させて頂き、その場では不安や疑問が出ない事も多く、説明後に疑問があればいつでも連絡頂けるようにお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度のゆうゆうだよりや、面会時の記入票、受診時など家族さんとは普段から関わりを持ち、要望や相談があれば出来る限り応えさせて頂いている。	面会時や同行受診で来所した際に、家族から意見や要望を伺っている。また、月1回発行の「ゆうゆうだより」に家族からの意見や要望、相談等を記入する欄を設け、切手を貼った返信用封筒を入れて把握に努めている。利用者から「自宅に帰りたい。買い物したい。道の駅に行きたい」等の要望も多くあり、出来る限り対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ゆうゆう浜民（岩手棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、普段から職員一人一人と話す機会を作るようにし、意見や要望を聞くようにしている。	職員の要望や提案は、日々の業務の中や申し送りの際に把握している。また、3ヵ月毎に行っている管理者との個別面談や、月に1～3回本部の部長が来所した際に部長が直接聴取している。利用者支援についての意見や施設の修繕に関する提案が多い。洗濯場の段差の改善や手すりの設置等、できることから具体化している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、普段から職員一人一人と話す機会を作るようにし、勤務状況の把握に務め、常日頃からユニットリーダーとも連携し職員一人一人のやりがいにもつなげられるように職場の環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、2ユニットに1人だけのリーダーであるが毎月チームに合わせた課題の取り組みを行っている、必要がある際には個人に勉強会を実施している。又、認知症VR研修や事業所間の合同研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も実践者研修へ参加したりと同業者の方とも交流・意見交換を行いながら、ホームとしてのサービスの向上、職員の意欲向上に務めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に聞き取りを行いながら、職員間で共有し実践している。又、普段から関わりを持つことで、話しやすい環境を作る事により、利用者さんが困っている時にはすぐに不安解消に務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約の際、ご家族さんの話を聞きながら、事業所として出来る限り要望に応えられるように務めている。又、不安な事や心配な事があれば安心されるように都度聞くようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 (岩手棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で必要であればお話を伺いながら対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの生活の場、利用者さんの家にお邪魔させて頂いている意識を持ち、介護するだけではなく、利用者さん同士でも、暮らしを共に出来る関係性作りもしながら、共に一緒に生活をしていく事を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の制限もなく、いつでも会える時間を確保できるようにしている。面会に来られた際は、生活の様子をお伝えしたり看取りの利用者さんに関してはいつでも会えるように機会を作っている。家族さんと外出する機会が増えており、娘さんの結婚式に参加されたり、家族でお墓参りに出かけられる方もいた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に行かれていた、行きつけの床屋に出かけたり、よく行っていたスーパーへ買い物に出かけ、ご本人との繋がりを大切にしている。	利用者は、地元出身者が多いため馴染みの場所も多く、スーパーや店へ出かけて食材に使う魚をさばいてもらったり、馴染みの理美容院に通っている利用者もいる。また、希望により自宅周辺や行きたい場所へドライブを兼ねた外出支援も行っている。月1回来所する美容師も馴染みの関係となっている。孫の美容師に事業所内で髪を切ってもらっている利用者もいる。馴染みの人や場所との関係性が途切れないよう、職員は継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット関係なく、ご本人が過ごしたい場所や安心する場所で、利用者さん同士が関わりを持っている。職員が余計なお手伝いとならないように務めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様からの連絡により亡くなられた際、ご家族様から連絡があり、火葬に参列させて頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 (岩手棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から希望や思いを汲み取るよう努めてはいるが、その日その時で話す内容も異なる事もあるため、記録や職員と話をしながら把握している。	利用者の多くは言葉で伝える事ができるため、普段の会話から思いや意向を把握している。食べ物や外出に関する希望が多く、申し送り時や月1回開催している打ち合わせ会で協議し、職員間で共有に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話からもちろんだが、関りの中で新たな気づきもあるため、計画の振り返り等行い把握している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの思いも変化がある為、具体的な内容として、ご本人や周りの様子はどうか、記録しチーム間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけではなく、チーム全体として振り返りとして記入して頂き、現状に合わせた計画書を作成している。	全職員が利用者の意向や心身の状態を確認し、支援の振り返りを行っている。3ヵ月毎のカンファレンスで検討した内容を基に、計画作成担当者がプラン見直しの原案を作成している。家族や利用者の意向を確認するとともに、かかりつけ医や契約している訪問看護ステーションの看護師の意見も取り入れ、家族や利用者に説明の上で了承を得ている。作成した介護計画は、職員間で共有し実態に即した支援に繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人記録へ記入したり、気づきや変化のある時は日誌に記入したりとチーム全体で共有、実践に繋げている。結果内容を元に介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	計画作成担当者だけではなく、チーム全体として振り返りとして記入して頂き、現状に合わせた計画書を作成している。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 (岩手棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長様や、民生委員さんから地域行事の話もありましたが、行く機会もなく実行されていない。10月は地区の運動会にお誘いされており参加したい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族さんと病院とも話し合いを行いながら、ご本人の状況に合わせた医療が受けられるように務めている。	ほとんどの利用者が入居前のかかりつけ医を受診している。また、3ヵ所のかかりつけ医に訪問診療を依頼している。病院受診は家族同行を基本とし、その際には利用者の状態を記入したメモを渡し、結果を確認している。家族が対応出来ない場合には職員が同行し、結果は「受診記録」に記入し、事業所と家族間で共有している。訪問看護ステーションの看護師が、週1回来所し利用者の健康状態を確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、ご本人の様子をお伝えし、助言を頂いている。必要に応じて指示を頂き、受診される事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は出来る限り早めに退院が出来るよう、病院と連絡を取らせて頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で家族さんからは、話を伺っている。今年の6月より、看取りの時期に入っていた利用者さんがいたが、かかりつけ医の医師より看取りが出来る体制を取って下さる事になり、医療連携体制がとれる利用者さんが増えたが、今後としても数人利用者さんが看取りの段階になられた際に協力して下さるようにお伝えしていく。	入居時に重度化した場合や終末期の対応について説明し、家族や利用者の希望を伺っている。今年の6月に利用者の1人が看取り対応になったことを契機に、かかりつけ医の協力を得て看取りの体制が出来た。看取りの経験のある管理者等を講師に年2回研修会を開催するとともに、職員が不安なく対応できるようマニュアルを作成して取り組んでいる。訪問看護ステーションの看護師が24時間相談を受けてくれることになり、安心して対応できる体制となっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ゆうゆう浜民（岩手棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアル作成し実践している。又、分からない事があれば、訪問看護時に聞き、実践出来るように備えている。コロナも落ち着いて来たので救命講習を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し消防署の方から助言を頂いている。災害についても年2回の訓練を実施となっている為、4月に1回目を実施している。避難訓練も地域の方を交えての訓練は今後行う予定。	BCP(事業継続計画)は作成済みであり、年2回火災や災害を想定した避難訓練を実施している。10月には、夜間の火災を想定した避難訓練を消防署立ち合いの下で予定している。訓練の際には、近隣に住んでいる自治会長や民生委員にも参加していただくことにしている。ハザードマップ上は、土砂災害の危険地域とはなっていない。食糧の他、カセットコンロ、ポリタンク、LEDの電燈を備蓄している。	夜間想定訓練を暮色時に実施し、避難経路や夜勤者の対応等の課題を抽出し、具体的な改善策を講じられることが望めます。併せて、地域の協力をいただけることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供させて頂いているとらえながら、普段から接遇としても課題の取り組みを行い実践している。	入居時の生活歴や職業歴、趣味等の情報をもとに、一人一人に合わせた支援を行っている。ほとんどの利用者は、意思疎通が可能であるが、中には言葉に出すことが出来ない利用者もあり、仕草や表情などから意向を確認するよう努めている。トイレ誘導時には、誇りを傷つけないように配慮している。馴れ合いや気になる言葉遣いがあれば、職員会議で事例をもとに再確認し、さり気ない声の掛け方を心掛けるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が考え、自己決定できるような声掛けをしているが、まだ職員が先に手出しをしてしまう職員もいるので研修を含めながら改善していきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体とならないよう、利用者さん一人一人の生活のペースに合わせ、ご本人に伺いながら、自由に過ごしたい場所で生活されている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ゆうゆう浜民（岩手棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧される方もいたり、顔を洗われたあとは化粧水や乳液をつける利用者さんもある。白髪が出てきたから髪染めしたいと希望があれば、こちらで対応させて頂いている。服装も季節感のない服装だったり着方が分からなくなる事もある為、ご本人に配慮しながら声掛けやお手伝いをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員へ要望とはいかないが、その日その時に食べたい物があれば、一緒に買い物へ出かけ料理を作られている。イベント毎のメニューも食べたい物を利用者さんへ聞き一緒に作られる事もある。誕生日などは外食をし、本人が食べたい物を召し上がられている。	その日の冷蔵庫の食材を見て利用者が調理し、味付けも行っている。食材は原則2、3日毎に利用者と職員が一緒に買い出しに出かけている。夏祭りには、焼きそばやトウモロコシ、焼きおにぎりを利用者と職員で一緒に作り、花火を見ながら楽しんでいる。誕生会にはケーキを買ったり外食をするなど、利用者の意向に添った対応を取っている。食卓のテーブル拭き、片付け、調理、更には洗濯も自身で行い管理する利用者もいるなど、「出来る事は自分で」を実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理までは行っていないが、糖尿病のある方は先生に伺いながら、量を調整している。水分量が足りない方には、ご本人が好む飲み物をおすすめしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声はかけさせて頂くが、希望されない方もいる。又ご自分で歯磨きをされるが力が弱く磨き残しのある利用者さんであれば、お手伝いさせて頂く事もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行く事が分からなくなっている方もいるので、時間を見ながらそれとなく声をかけさせて頂き、トイレに行かれる。ご本人の状況を見ながら日中は普通の下着、リハビリパンツにパット使用と工夫をしている。	布パンツを使用し自立している利用者は両棟併せて9人、自立しているがパットを使用している利用者4人、残る5人はリハビリパンツを使用している。一人一人の意向や心身の状態に応じた支援を行なっている。介助の必要な利用者には、排泄チェック表を活用し、仕草や表情を見ながら声掛け誘導を行っている。職員は、できるだけ自分からトイレに行けるような支援をしている。利用者の要望で、夜のみポータブルトイレを使用している方が1名いる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 (岩手棟)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人のお通じの把握に務め、出づらくなっている場合は、乳製品をおすすめしたり、ご本人の希望で冷たい氷水を飲まれている方もいます。それでも難しい場合は主治医に相談させて頂き、下剤の調整をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	億劫で入りたがらない方もおられますが、声掛けの工夫や個々のタイミングで入りたい時に入っている。	入浴日や入浴時間を特に決めず、利用者の希望に合わせた入浴を支援している。毎日の入浴も可能で、概ね1人当たり週2、3回の入浴となっている。畑仕事や草取り後の入浴を希望する方は、18時～19時頃に入浴している。入浴を嫌がる方には、足浴や清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、お部屋で休息される方も居たりテレビを見ながら休息される方もいます。お手伝いが必要な方には、個々の状態を見ながら、声をかけさせて頂き、休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを理解は出来ていないが、どのような薬を飲まれているか把握している。薬の変更があった場合に体調の変化が見られた際は、かかりつけの医師や薬剤師へ相談し助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全てを理解は出来ていないが、どのような薬を飲まれているか把握している。薬の変更があった場合に体調の変化が見られた際は、かかりつけの医師や薬剤師へ相談し助言を頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム周辺の散歩へ毎日出かけられる方も居たり、外で畑仕事をされたり、家に帰りたいと希望される方がいれば家族さんの協力でご自宅へ行かれる方もいる。今年は、お花見にも出かけている。	事業所周辺の散歩や畑仕事、買い物で日々戸外に出ることが多く、何れも職員が同行している。家に帰りたいと希望する利用者は、家族の協力を得て自宅周辺をドライブする等、利用者の要望に合わせた対応を行っている。菜園では、利用者がトマト、大根、きゅうり、枝豆等を植え、収穫した野菜を使って利用者が職員と一緒に調理している。ドライブを兼ね、産直でアイスクリームを食べたり、花見に高松の池や四十四田ダムに出かける等、利用者の意向に沿った支援に努めている。6月には午前と午後に分かれ、「チャグチャグ馬っこ」を見に出かけた。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム ゆうゆう浜民（岩手棟）

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族さんと話しながらか持たれる方もいる。又、近隣の店に行き食べたい物や飲みたい物を買に行かれたり、必要な物を購入されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に居るご家族さんからの手紙が届く事はあるが、利用者さんから郵送される方はいない。ご本人で携帯電話をもたれている方も増え、電話を掛けたい時に掛けられている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけを利用者さんと作られたり、季節のお花を飾られたりされている。又、季節に合わせた食材も一緒に買い物へ行き購入し食べ物を提供している。又、玄関先の静かな場所で過ごされる方も居る。	食堂兼ホールは、床暖やエアコンで、室温が調節され、快適に過ごすことが出来る。テーブルや椅子、テレビ、ソファがあり、季節に合った装飾も、職員と利用者が一緒に作成したものが飾られている。壁面には、行事で撮った写真も掲示され、利用者は自身の部屋やホール等、思い思いの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人の落ち着ける場所で個々に自由に生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物、テレビやテーブル写真、遺影を持ち込まれている方もいる。	備え付けのベッド、タンス、床頭台等があり、床暖、エアコンで室温が調整された快適な居住空間となっている。利用者は布団、テレビ、ラジオ、衣装ケース、冷蔵庫、遺影、位牌、家族写真など、使い馴れたものや必需品を持ち込み、居心地の良い部屋になるよう工夫している。洗濯ラックを用意して自分で洗って干し、管理もするなど、自分でできる事は自分でやろうとしている利用者もあり、職員は見守りながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からない方もいますので、トイレ、お風呂場に張り紙を張らせて頂いている。部屋が分からない方には名前を付け歩行が不安定な方には自立できるように手すりを設置し環境作りをしている。		